

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 氷見市立朝日丘小学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
住所 〒935-0023
富山県 氷見市 朝日丘 3番1号
E-mail : asahigaoka@ed.city.himi.toyama.jp
Website : http://www.city.himi.toyama.jp/~60010/
児童生徒数：男子 136名 女子 136名 合計 272名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

朝日丘小学校は、ユネスコスクールに承認されて四年目を迎えた。一年目、二年目は、主に社会科の学習にESDを位置付け、研究を進めてきた。三年目を迎えた昨年度は、「知る（ESDカレンダーの見直しと授業研究）」、「育む（道徳教育の推進）」、「為す（ボランティア活動とESDパスポートの活用）」を三つの柱に、実践に取り組んできた。

今年度は、これまでの成果と課題を基に、三つの柱を継続しながら、生活科や総合的な学習の時間を充実させることにした。それらの時間にESD（持続発展教育）に取り組み、子供たちがふるさとよさに気づき、ふるさとを愛する心情を育てていくことを願った。

今年度の生活科・総合的な学習の時間の各学年の主な取組の成果と課題は、次の通りである。

〔1学年：朝日丘小学校となかよし〕

<成果>

- ・子供たちの人間関係を、学級から学年、学校全体へと少しずつ広げていくことで、無理なく活動に取り組めた。
- ・思いや願を引き出す導入を工夫した。また、何時間で学習するのかを話すことで、見通しをもって取り組むことができた。
- ・カードに、満足度を自己評価したこと、そして、その理由を話し合っことによって、教師が子供を捉えられただけでなく、子供自身も自分の活動を振り返ることができた。
- ・見つけたことを伝え合う活動では、知らない場所の話題に興味をもって聞く姿がみられた。

<課題>

- ・友達と比べて聞くのではなく、子供の気持ちに寄り添い、全員が共有するように学習を進めることが、ESDにつながることである。あたたかく、優しい子供をもっと育てていきたい。
- ・子供一人ひとりをしっかりと見取り、子供の発言について問い返したり、全体に広めたりするような学習展開が必要である。

〔2学年：ザリガニとともだち〕

<成果>

- ・校区に出かけ、ザリガニつりを楽しむ時間を十分に確保した。子供たちは夢中になって活動し、ザリガニを家族と一緒に取りに行く子供もいた。
- ・一人一匹のザリガニを育てることで、ザリガニのことをよく知り、愛着をもって育てることができた。また、命を感じるようになっていった。
- ・学習のまとめとして行った「ザリガニブックづくり」では、見つけたことを何ページにも渡って書きつづり、思いを深めることができた。

<課題>

- ・ザリガニの脱皮までを扱ったが、できれば産卵も扱いたかった。そうするこ

とで、命に対する考えが深まったと考えられる。

・ザリガニ釣り以外にも、校区に出かける場を、これまで以上に確保していきたい。

〔3年生：わたしのまちのたからもの〕

＜成果＞

- ・自分が見つけた宝物の写真を撮影するという活動は、子供たちは探究心をさらに駆り立てながら、地域のよさを調べることに繋がった。そして、朝日丘小学校区のよさを再確認することができた。
- ・父親が調理場で働いている場面を撮影したり、家族で氷見市の史跡を巡って歴史について考えたりなど、家庭と連携しながら学習を進めることができた。
- ・まちなかサロンでの写真展で 100 名近くの方から感想のメッセージをいただいたことで、地域との関わりを深め、子供たちは活動への充実感を得たり、次の学習への意欲を高めたりすることができた。

＜課題＞

- ・写真展の解説文を子供たち自身が見直し、改善していくための支援の在り方に課題が残る。
- ・自分が宝物だと考えた理由を友達に伝える表現力の育成に課題が残る。

〔4年生：1／2成人式 いろいろな人と関わろう〕

＜成果＞

- ・ワークショップ型の授業を行ったことで、一人ひとりが自分の考えを話す機会を確保することができた。
- ・聞き手をローテーションしたことで、効率よく発表を聞くことができた。
- ・学習カードに気付いたことや感想を記入しながら聞くようにしたことで、集中してしっかりと聞く姿が見られた。

＜課題＞

- ・ワークショップ形式での学習の進め方について検証を深めたい。
- ・一人調べを行う場合、なぜその人を選んだのかという理由付けをしっかりともたせて取り組みたい。
- ・1／2成人式のまとめとして、できるようになったことを発表したり、感謝を伝えたりする機会を設けたが、そのことをESDカレンダーに位置付けて計画的に行いたい。

〔5年生：今を見つめて ～ぼく・わたしの健康～〕

＜成果＞

- ・課題をもつときに、自分の生活を見直して、なりたい姿を考えてから行った。
- ・本を中心というばかりではなく、実践を取り入れたことで、発表に重みが出てきた。分かりやすかった。
- ・話し合いでは、何となく分かっていたことが明確な考えに変わり、その後の活動につながった。
- ・すこやかトークに向けて

＜課題＞

- ・調べ方として、本で調べるだけでなく、「聞きに行く」などの活動がもっとあるとよかった。

- ・子供たちが一人ひとり課題をもって調べていたが、どのような思いで取り組んでいるのかなどについて、子供の見取りをもっと深く行っていきたい。

〔6年生：未来をつくる わたしたち〕

＜成果＞

- ・高齢者をテーマにしたことは、子供たちのやさしい面に触れることができよかった。
- ・地域の高齢者施設だということで、親しみをもって取り組むことができた。
- ・実際に施設を訪問し、お年寄りに喜んでもらったことで、自己有用感を高めることができた。
- ・話し合いでは、「慣れ親しんだコースの方がいいよ。」「飽きているんじゃない？」などと、高齢者のことを考えた思いやりのある発言が聞かれた。

＜課題＞

- ・中学校でも、同じ高齢者施設の訪問を行っているので、小中連携の視点から、活動内容を見直すことも必要である。
- ・施設の方が求める活動を行うためには、継続した取り組みが必要である。
- ・子供たちの意識を更に高めるためにはどのような工夫や支援を行えばよいのかについて考えていきたい。

このように、本年度は、すべての学年で、授業を中心にESDを推進してきた。11月には、校内研修会を公開し、市内外多くの参加者からご意見をいただいた。また、1月には、ファミリーパークで行われた「ESDシンポジウム～ユネスコスクールの子供たち～」において、実践を発表した。これからも、様々な実践を通して、地域を愛する子供を育てていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）